
君を待つ

M3

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君を待つ

【Nコード】

N3143BA

【作者名】

M3

【あらすじ】

全ては、十年前の1つの出会いから
打倒百蘭！十年後沢田綱吉と雲雀恭弥・入江正一によって立てられた作戦……その背景を今、M3が死ぬ気で執筆！！

序章（前書き）

また難しい話題に挑んでんな（・・・）みたいな（笑）けれど、アンケート中、とある人からせっかく頂いたリクエストでしたので、頑張ってみたいと思います！！かゝなり、スロー&ロングで送りしていくとは思いますが、皆様最後まで、死ぬ気でお付き合い願います 〃 〃 （・・・）

序章

並盛町のとある道路

「う〜わ〜…参ったな〜。何でだろう？コレってヤバイよ…」

慌てふためいている1人の少年。並盛中学校の制服に身を包み…自身の自転車の見て途方に暮れている

「?…どうかしたんですか…?」

そんな少年に今度は学ランを着た眼鏡の少年が近づいてきた。その耳には、ヘッドホンがついている。

「え…いや……なんか自転車が壊れちゃったっぽくて…」

「僕で良かったら、その自転車、見せてもらっていいですか?」

「え・でも……」

「大丈夫です。少し……見せて下さい。」

……

「本当にありがとうございました。」

「い、いえ。少し、メカニックに強いだけですよ」

「でも……おかげでいったん家に帰らなくて済んだから、学校も遅刻
しませんでした。」

「……その制服、並盛中学？」

「あ、はい。並盛中学の3年なんです…俺」

「へえ！僕も中学3年なんだ！奇遇だね。」

「そっか！じゃあ同い年だ！」

「僕、入江正一。」

「俺は、沢田綱吉。」

「そっか…綱吉くん。また会えるといいね…」

「自転車直してくれたお礼もしたいし、ぜひ会おうよ…！正一くん」

僕は知ることになる

このたった一つの、一人の少年との出逢いが……

全世界を変える

光となることを

ボンゴレファミリー

十代目
“ 沢田綱吉 ”

彼らと今

十年後

「十代目、全員集まりました。」

「わかった…じゃ、会議を始めたいと思います。」

イタリアボンゴレファミリー本部

その会議室に集まるスーツに身を包んだ7人のマフィア。

ボンゴレ?世　ボスの沢田綱吉

沢田綱吉の右腕　嵐の守護者獄寺隼人

ボンゴレ2大剣豪の1人　雨の守護者山本武

最年少若きマフィア　雷の守護者　ランボ

昔と変わらぬ風貌　晴の守護者笹川了平

守護者の紅一点　霧の守護者　クローム髑髏

そして……中学から長きにわたり、沢田綱吉を立派なマフィアのボスの素質とすべく家庭教師を務め、世界最強のヒットマン（殺し屋）であり“元”呪われしアルコバレーノリボン

この7人だ。現在のボンゴレは、十代目ボス沢田綱吉を筆頭に、彼らがボンゴレ幹部であり、代々受け継がれしボンゴレリングを守護する守護者だ。

「……それじゃあまず、世界各地のボンゴレ拠点に偵察してくれた人から報告お願いします。」

「じゃまず俺からいくぞ！」

まずは晴の守護者、笹川了平が名乗り上げた

「俺はイタリア内、極限に北から南まで見てきたが……キャバッローネファミリールボス、ディーノの言ってた通りだったぞ」

「?!……本当ですか？お兄さん……」

「ああ……。このボンゴレから始まり、イタリア間ではどの中小マフィアも、このボックスを使っているようだ……」

「……やっぱり、ボックスですか……」

「もう……極限にかなりの量が開発されているらしいが……」

「そっぴやツナ。雲雀が研究してんだろ？なんか知らないのか？」

山本が口にした1人の人物……この会議に出席していない雲のボンゴレリングを守護する者 雲の守護者 雲雀恭弥だ。彼は他人とのグループ行動を極端に嫌い、ボンゴレ雲の守護者と言われつつも、過去1度たりとも、ツナ達と足並みを揃えたことはない。しかし、それでも……『並盛とその仲間が自分を守る』人一倍強いその志をもち、ツナ達の危機に密かに力を貸してくれたりした。決して誰とも馴れ合わず、独自の立場からファミリアを守る孤高の浮き雲。それが雲雀恭弥という男だ。……なんだかんだ……長い長い腐れ縁になったツナ達にとって今では雲雀のそんな性格も理解している。

現在、雲雀は、ボンゴレファミリアとは別に風紀委員を母体とした「風紀財団」を組織しており、最近……マフィア間で飛び交う謎のボックス兵器について調査・研究を行うため世界を飛び回っているの

だ。

「うーん……。雲雀さんが最後に教えてくれたのは……4世紀前の生物学者ジエペット・ロレンツィニが遺した343編の設計書を元に、アルコバレーノのヴェルデが同じ秘密結社の仲間のイノチエンティ、ケーニツヒと共に開発。5年でプロトタイプを完成させ、生物を模したオリジナルの343の匣の他に新しく、保存用、道具、武器の匣を発明・開発をしている。』ということだけだったな……」

ツナは手元の資料を読み上げた。「ヴェルデ」その名が出てきた時、微かながらリポーンが動いた。

ヴェルデは、リポーンと同じ“元”呪われし赤ん坊、アルコバレーノの1人だ。天才科学者で、その類い希なる頭脳から、ダ・ヴィンチ再来と謳われたほどだ。だが、ヴェルデは性格がひねくれ者で、信じられるのは数字と己の頭脳が全て、リポーンとは顔が合えば互いに腹の探り合い……。不仲な関係だ。

「そのボックス兵器の波及には、間違いなくヴェルデの奴、絡んでやがるな」

リポーンがあからさまに不機嫌な顔で口にした

「ツナ……実は……ロシアの方でも、ボックスは広がりつつあるぜ」

今度は山本がしづしづ言った

「ロシア…だと?!」

ツナだけでなく、右腕の獄寺も驚きが隠せないようだ…。

「ああ…まあ…イタリアほどじゃねーけど、少なくともボンゴレ支部は知っていた」

「…そう。いよいよ…世界各国のボンゴレ支部が」

ツナ表情は暗くなる。しかし、獄寺がそれにさらに追い討ちをかけるかのごとく、ある事実を口にした……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3143ba/>

君を待つ

2012年1月14日12時54分発行